

*下記の太字のところと一緒に声を合わせましょう。
*座席(ざせき)とマスクはご自由(じゆう)にどうぞ。

2026年 2月 1日 主日礼拝 (10:15)

司式: IK 長老 奏楽: HN 長老

《神のみ前に近づく》

序 詞 (ヴォータム)

わたしたちの助けは、天と地を造られた神からきます。

アーメン。

あいさつ

主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりが、あなたがたとともにありますように。

そして、また、あなたとともにありますように。

アーメン。

讃美歌 132-1節 (潤れた谷間に野の鹿が)

罪の告白 (声を張り上げないで共に祈ります)

父なる神さま、新しい2月の歩みを与えてくださり感謝します。この月もあなたの導きと支えを信じ、あなたを見上げながら生きていきますように。そのために私たちの罪を赦し、清め、新しい力と知恵と聖霊とを更に豊かに注いでください。

聖餐の恵みを感謝します。今日ここに集えない方々の上にもあなたのお支えとお守りとを与え、癒しのみ業を注いで、力強く導いてください。

主よ、この世界の平和のためにも切に祈ります。

混乱する世界へ救いのみ手をくだしてください。

戦争が生じるようなことがありませんように。

「主は言われた。『わたしはあなたの前に、すべてのわたしの善(よ)い賜物を通らせ、あなたの前に主という名を宣言する。わたしは恵もうとする者を恵み、憐れもうとする者を憐れむ。』」

*しばらく黙禱の時をもちます。(出エジプト記 33:19)

主よ、私たちの心と体を生き返らせ、喜びで満たしてください。御名によって祈ります。アーメン。

讃美歌 32 (キリエ) =座ったまま

赦しの確認と保証 (司式者のみ)

*主の赦しと慰めの言葉をお聞きください。

アーメン。

讃美歌 444 (気づかせてください)

《神のみ言葉の宣教》

聖書

創世記 1章1~8節 (旧 pl)

これは神の言葉です。

神に感謝します。

ルカによる福音書 8章22~28節 (新 pl18)

これはキリストの福音です

主なるキリストを賛美します。

み言葉を求める祈り (司式者)

讃美歌 462 (はてしも知れぬ)

説教 『ルカ67 — 向こう岸に渡ろう!』

祝福の祈り 武田 真治 牧師

《 sacrament と神への応答 》

讃美歌 418 (キリストのしもべたちよ)

聖餐式 聖餐の意味/聖餐の祈り/陪餐/感謝の祈り

配餐: HS AS IH IK 各長老

讃美歌 75-1, 2節 (今、装いせよ)

信仰告白 (ニケア信条=讃美歌 93-4-2)

平和の挨拶 (握手せずその場から)

献金 奉仕者: IK IA

とりなしの祈り (司式者)

主の祈り 93-5 =ともに祈りましょう

報告

讃美歌 90-1節 (主よ、来たり、祝したまえ)

祝祷 武田 真治 牧師

後奏 報告と退場

受付: NE MH 礼拝: KY 長老

◇本日の礼拝と集会

- ・本日礼拝の中で「聖餐式」を献げます。主の御守りに感謝して受けましょう。また、礼拝後すぐ「2月誕生者の祝福」を祈ります。礼拝前に日曜学校、聖書輪読会と求道者会。礼拝後、お茶の会と牧師と語る会を持ち、その後、会堂管理委員会と長老会です。
- ・本日『オリブの葉-472号』発行されました。ご寄稿くださった方と編集委員のご奉仕に感謝します。

◇次週の礼拝と今後の予定、お知らせ

- ・次週礼拝前に日曜学校礼拝、聖書輪読会と求道者会を持ちます。礼拝後、お茶の会と牧師と語る会、その後、各会の例会があります。ご予約ください。
- ・今週4日(水)午後7時より「発送奉仕」を行います。
- ・2月7日(土)「カフェひつじ雲」午前11時より。
- ・2月11日(水)「埼玉地区2・11集会」午後1~3時。大宮教会にて。講師:石浜みかるさん、参加自由。
- ・2月15日(日)礼拝は「関東改長協交換講壇」にて小池正造牧師(東新潟教会、教区書記)に説教奉仕頂きます。武田牧師は東新潟教会にて奉仕。
- ・2月22日(日)礼拝後すぐ「教会定期総会」を持ちます。昼食におにぎりとお茶を用意しますので会員の方はお残りください。長老選挙と年間計画他。
- ・次年度各奉仕へのご意見やご希望を書記までお申し出ください。その上で各委員会と奉仕表を作成します。また、『総会資料』用の今年度各部・各委員会の活動報告を3月15日迄に書記まで。

◇上尾富士見幼稚園より

- ・「見てねデー」開催しました。本日も子ども達の作品を展示しています。どうぞ自由にご覧ください。

◇個人消息

- ◇牧師予定 2~5日幼稚園送迎と掃除 2日~3日教団常議委員会 4日祈会 5日祈会 7日掃除他 <武田より>・今週は教団常議委員会ですが、教団出版局の縮小改編が決定されており、「信徒の友」や「教師の友」が休刊になるかもです。時代の流れですね。